# 企画賞

# 『地域住民共創の地域社会の再建築』

## リフォーム前

社会とは「僕と他人との関係」であり、建築を設計することは「空間や物との関係を設計することだ」と建築家の阿部勤は自身の著書で記した。本プロジェクトにおいて、僕とは、施主であり、建物であり、敷地でもある。それらと他人にあたる隣人や近隣住民、街路空間などの地域社会との関係を改めて建築のプロセスを通じて結び直し、本プロジェクトの目的である「地域住民にとっての社会的居場所」になることを目指した。

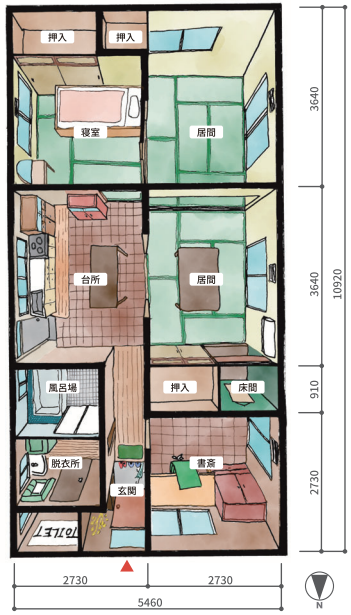

図1)改修前平面パース図

建築/敷地の特徴

図2)改修前の対象敷地と建物

図3)建物に囲まれた暗い庭

図4)フラットに繋がる隣の庭

1975年に某大手ハウスメーカーによって竣工された平屋建ての住宅。以前の持ち主が他界されて以降、十数年空き家となっていた。幹線道路沿いに立地しながらも背の高い植栽と約1500mmある擁壁によって地域からはその存在があまり認識されていなかった。一方で、地域の小中学生の通学路(幹線道路)沿いにあることや陰が生じてしまう周辺環境、素敵な庭がある隣の敷地とフラットに接続していることなど、魅力が多様に存在していた。

建築/敷地の課題

図5)既存の植栽と擁壁敷地

図6)既存玄関までのアプローチ

図7)劣化した既存屋根の様子

図8)改修前の居間の様子

図５から図８の写真で示すように既存の動線が不適切であること、植栽や擁壁、周囲の建物によって構成された地域から断絶されているような周辺環境であること、屋根が崩れてきていること等、これらの課題(状況)の改善を前提に、事前のリサーチから地域住民の社会的な居場所となることを目的としたプロセスで改修することが最も重要であると考えた。

## リフォーム後

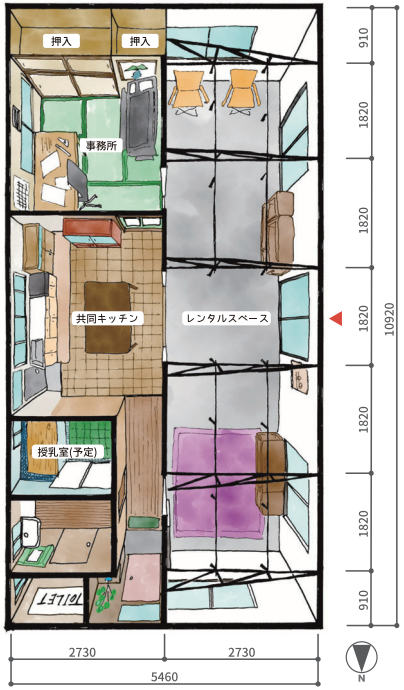

図9)改修後平面パース

建築的提案

既存の西側の三室を一つの空間に。アプローチの動線改善と隣の庭との連続性の確保。植栽の剪定と擁壁にサインペイントを施すことで土地の雰囲気の刷新を図った。

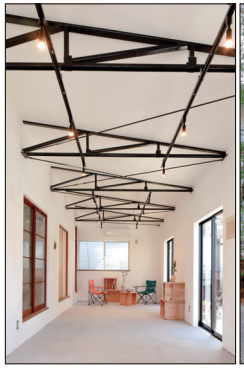
図10)改修後のレンタルスペース

図11)新設した隣地からの小道

図12)機能改善した屋根

図13)改修後のファサード

改修後の利用実態

運営者や地域住民らによって定期的なイベントが開催されており地域住民の溜まり場としてだけでなく撮影会場や地域食堂の場として解放されるなど、地域のニーズに適した使われ方がされている。

図14)地元の中学生の食事会の様子

図15)講演会で利用されている様子

図16)撮影で利用されている様子

## 設計のポイント

### ①一つの敷地内だけでの建築ではなく、地域計画的視点・提案を伴った建築プロジェクトであること

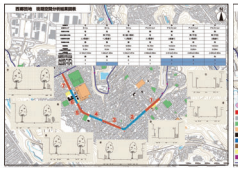
図17)街路空間分析図

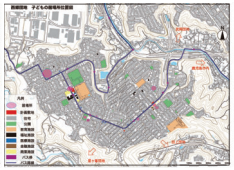
図18)子どもの居場所分布図

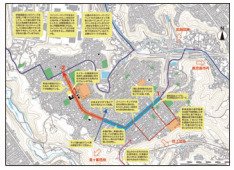
図19)地域のニーズマップ

図20)本設計提案の位置づけ

…幹線道路であり登下校の道沿いにに立地している一つの敷地内だけでの建築改修プロジェクトではなく、地域にとっての目的であることを確かな価値があることを存在してした。西陵地域の現状を調査、分析し、国内外の事例からもみた位置づけ等も行って、本設計提案の方向性を定めた。

### ②地域住民の社会的居場所となる為に企画段階から積極的に地域住民と共に設計・施工を実施したこと

図21)地域住民とのWSの様子

図22)県内改修事例視察時の様子

図23)漆喰WSの様子

図24)オープンハウスの様子

…本プロジェクトは遡ると2022年7月から始まり企画段階から積極的に地域住民や鹿児島大学の学生等を交えてWSや話し合いを積み重ねた。
一連の活動は、施設が完成する時点で地域住民との関係性が構築されている状態にあることを目指して取り組んだものであり、このプロセスが空間の質にも寄与している。

### ③土地や建築物の価値を改善する為に、各境界領域に着目して建築的デザインを行ったこと

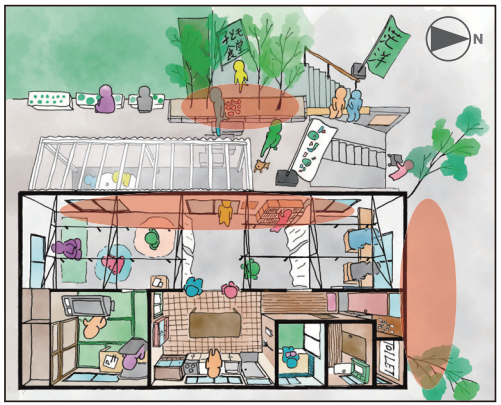

図25)建築的デザインを行った各境界領域を赤丸で示した平面配置図

図26)隣地境界線をまたぐ小道

図27)屋内外を繋ぐ土間空間

図28)窓際を人の居場所にする什器

図29)子ども達と共創した擁壁

| 応募者 | 設計者 | 施工者 | 築年数 | 構造 | 建方形式 | 竣工 | 工事期間 | 工事費 | 所在地 | リフォーム内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 井尻敬天 | 井尻敬天<br>＋<br>株式会社志賀設計室 | 空間工房クーラ | 49 年 | 鉄骨系<br>プレハブ | 平屋 | 2024 年３月 | 150 日間 | 420 万 | 鹿児島市 | 地域住民の社会的居場所として空き家を交流拠点施設へ改修するプロセスを通して地域社会との関係性の再構築を図った。 |